

令和5年 新年のごあいさつ

松浦市長

友田 吉泰



明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、令和5年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、長引くコロナ禍において、ウクライナ情勢の悪化や急激な円安の進行などによるエネルギーや食料品等の価格高騰は、国内経済はもとより、市民の皆さまの家計にも多大な影響を及ぼしました。

そのような厳しい中にも、閉鎖型の高度衛生管理型魚市場へと再整備を行った「松浦魚市場」が3月に、EU向けHACCPの認証を取得し、水産物食糧供給基地としての機能を向上させました。

4月には、長崎県立松浦高等学校

校に、課題解決能力を育成し、実践的な学びを重点的に取り組む『地域科学科』が新設され、第1期生となる新入生が入学しました。

10月には、鷹島海底遺跡において、元軍船の一石型木製いかりの引き揚げ作業を行い、現在、埋蔵文化財センターで一般公開を行っています。

また、元寇にゆかりのある松浦、壱岐、対馬で連携し、三市の元寇ゆかりのスポットを巡るスタンプラリーを開始しました。加えて福岡市の元寇ゆかりの施設を巡るコースを設定し、福岡都市圏などからの誘客を図っております。

全国和牛能力共進会鹿児島大会では、高等登録の母牛、娘牛及び孫娘牛の直系3代にわたる3頭を1群として出品される第5区・高等登録群の部で、本市の畜産農家が飼育する3頭が優等賞7席に入賞いたしました。

さて、迎えた新しい年は、引き続きワクチン接種を進めながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努め、市内経済の回復に向けて全力で取り組み、新たな成長・発展の基盤づくりを進めてまいります。

まず、「アジアフライの聖地 松浦」について、その知名度を更に向上させ、本市経済への波及効果を高めるために、観光専門誌へ特集記事を掲載し、旅行会社へ配布するなど、関西方面に売り込みをかけ、西九州新幹線を活用した誘客に取り組めます。

九州オルレ松浦福島コースについては、九州オルレによる審査の結果「合格」の判定をいただきました。引き続き、オープニングイベントの開催に向けた準備を行うてまいります。今後は、昨年グラインドオープンした「福之島Hotel & Resort Tsubaki」とも連携しながら、福島地域の新たな魅力の一つとして、誘客を図ってまいります。

また、鷹島神崎遺跡への関心を高め、国内世論を喚起し、元寇を活用した観光振興を具体的に進めるため、官民連携共同でアクションプランの策定を行います。

次に、「対話」によるまちづくりを推進するため、地域版未来会議を継続するとともに、引き続き小学校区単位での協働によ

るまちづくりを進め、調川地域をモデル地域として「まちづくり運営協議会」の設立を支援してまいります。

このほか、移動図書館車「さらさら号」については、市内の子どもたちが描いたイラストを用いて新たにデザインした車両に更新し、引き続き市内各地を巡回して、図書館サービスを提供いたします。

わくわく・おでかけ支援事業については、開始から10年が経過し、高齢者・障害者等のニーズの変化に対応した新たな取り組みを実施してまいります。

新しい年も、市民の皆さまと共に、総合計画に掲げる6つの将来像の実現を目指し、持続できるまちづくりに取り組んでまいりますので、御支援並びに御協力をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆さまにとりまして、健やかで輝かしい年となりますよう心から祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。



松浦市議会議員
谷口 一星

明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのこころと、心からお慶び申し上げます。また、日頃から、市政発展のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私も議長に就任し、まもなく一年を迎えることとなりますが、新しい年を迎え、その責任の重さをあらためて感じるとともに、松浦市の更なる発展のために、引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしております。

今、人口減少・少子高齢化社会の到来により、国も地方も大きく変革する中で、地方の果たすべき役割や責務がますます重要となっております。本市においても、今後の限らない発展と市民福祉の更なる向上を目指し、様々な課題に注力しているところでございます。

さて、本市では昨年10月1日、約740年ぶりに「一石型木製

いかり」が鷹島海底から引き揚げられました。市議会といたしまして、鷹島海底遺跡保存活用特別委員会を設置し、将来の沈没船引き揚げに向けた取り組み等について、官民の連携強化をなお一層図りながら、この機運を盛り上げていきたいと考えております。

皆さま方には、昨年にも増してご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まだまだ新型コロナウイルスの終息が見えない状況ではありますが、安心して暮らせる松浦市であり続けるために、どうか市民の皆さまにおかれましては感染対策を怠ることなく、健やかな一年をお過ごしただきたいと願っております。

結びに、新しい年が市民皆さまと松浦市にとりまして、実り多き一年となりますことを心から祈念いたします。新年の御挨拶といたします。



オーストラリアマツカイ市長
グレッグ・ウィリアムソン

明けましておめでとうございます。マツカイ市にとって2022年は「発展と成長」の年となりました。主要な事業は目覚ましい進歩をとげており、市の発展と経済成長に喜びを感じています。

主要な事業の一つである「マツカイ市川岸開発事業」は、市の将来を見通したものであり、水辺の美しい景観を際立たせるよう整備が進められました。

パイオニア・バレーでのマウンテンバイクコース整備事業も計画が進んでいます。このコースはヤングラ国立公園やクレディントン州有林を通過し100kmに及ぶもので、マウンテンバイクでの完走に3日以上を要する規模になる予定です。

毎年夏に開催している「日本語スピーチ・コンテスト」には多くの学生の申し込みがあり、「夢の休暇」をテーマに日本語を使った素晴らしい発表が披露されました。その中でも、ウィットサンデー・アングリカン高校の10年生であるジャ

スミン・サルマンさんは極めて優れた発表を行い、最優秀を受賞しました。

松浦市との直接的な交流についても明るい兆しが見えています。マツカイ市では令和5年7月に「青少年使節団」の派遣ができるよう準備を始めており、市民を対象とした「親善訪問団」の派遣についても今後計画を進めたいと考えています。マツカイ市の学生や市民が松浦を再び訪れることができることは大変喜ばしいことであり、訪問団から松浦の思い出話を聞くことが今から楽しみでなりません。

松浦市・マツカイ市の交流に御尽力いただいている松浦市国際親善協会とシスターシティーズ・マツカイには深く感謝を申し上げます。コロナ禍におけるオンライン交流やSNSでの情報交換は、両市民の絆を深める機会となりました。

結びに、松浦の皆さまの御多幸を心から祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。